

## 「ウイロード完成記念式典」開催 ～ 美術作家植田氏の解説による現地視察会も開催～

区は、本日、池袋駅東西を結ぶ老朽化が進んだ公共地下道「ウイロード」のアートによる再生事業完成を記念し、式典を開催した。

本事業は、美術作家植田志保氏が公開制作で天井板や壁面に直接描画し、改修するもので、11月24日に完成を迎えた。暗く、汚い印象があり、女性の利用率が全体の約3割だった公共地下道が、描画と照明で色鮮やかに明るく、女性やファミリー層も安心して通れる道に生まれ変わった。

入口上部のファサード（※）は、漆喰に地域で使われる鈴としめ縄で模様をつけ、東口側は父親のような、西口側は母親のようなイメージをデザインした。また、照明は、朝は「いってらっしゃい」、夕方は「おかえりなさい」をイメージさせるように時間帯にあわせて調光した照明デザイナー監修のライティングを採用し、心地良い公共空間を演出している。

記念式典では、約8か月に及ぶ公開制作過程の記録映像上映や植田氏による作品紹介が行われ、最後に区長から植田氏への感謝のメッセージと花束が贈呈された。また、植田氏からは、絵画の贈呈があった。式典で区長は「ウイロードは100年の歴史がある池袋の東西を結ぶ重要なルート。その歴史や多くの人々の思いを色にして植田さんが新たな命を吹き込んでくれた。また地域の方の多大なる協力もありがたかった。植田さん、本当にありがとう」と感謝を述べた。

植田氏は、「大好き、うれしい、ありがとうという気持ちでいっぱい。最後に制作した西側の大きな壁画は、ウイロードに昔から関わってきた多くの方のバトンを未来へつなげる思いで感謝の気持ちを込めて描いた。ウイロードが、日常生活の中で心を開いてありのままの自分でいられるような場所になってほしい」と完成への思いを語った。 ※ファサード…建築物の正面の外観

ウイロード概要	池袋駅北側東西を結ぶ公共地下通路 大正14年建設。「雑司が谷隧道」と呼ばれ、昭和61年の改修時に「ウイロード」の愛称がつけられた。本改修では、壁面の凹凸を活かした描画を行い、漏水対策や監視カメラ設置等の安全対策も施している。 住所：豊島区南池袋1-28-2 全長：77メートル、高さ：2.1メートル
---------	---

写真 * 写真はメールで送ります	 <p>記念式典の様子</p>	 <p>区長と植田氏</p>
	 <p>ウイロードの様子（西側）</p>	 <p>手をモチーフに、日々の営みでの思いや街の豊かさを表現した西側の壁画</p>

問 合 せ	道路整備課長
-------	--------

報道機関各位

## 「ウイロード改修事業 完成記念式典・現地視察」開催 取材のご案内

平素より豊島区政並びに区広報活動にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

豊島区は、池袋駅東西を結ぶ老朽化の進んだ公共地下道「ウイロード」を、安心して通行できる通路に改修するため、アートによる再生事業に取り組んできました。約9か月に及ぶ美術作家植田志保氏による公開制作を経て、ウイロードは色鮮やかに生まれ変わりました。

改修事業完成を記念して、下記のとおり「完成記念式典」及び「現地視察」を開催いたします。ぜひ取材にお越しく下さい。

### 記

1. 日時 令和元年12月1日(日) 午前10時00分～12時30分  
報道受付 午前9時30分～
2. 会場 記念式典：としま区民センター8階 多目的ホール (豊島区東池袋1-20-10)  
現地視察：ウイロード 集合場所…東側入口付近駐車場(豊島区南池袋1-28-2)

### 3. タイムテーブル

#### 【記念式典】

- 10:00 開会 主催者挨拶 ビデオ上映 来賓挨拶
- 10:50頃 植田志保氏による作品解説
- 11:10頃 花束贈呈・フォトセッション(区長・植田氏)
- 11:30 閉会

#### 【現地視察】

- 12:00～12:30 植田氏、担当課長による説明及び取材



#### ■参考・・・ウイロード改修事業の概要

- ・老朽化が激しく漏水等があった公共地下道を改修するにあたり、美術作家の植田志保氏が壁面や天井に直接描画を行う再生プロジェクト
- ・再生にあたり、植田氏が地元の方々から池袋の歴史やエピソードを聞き、それを色で表現
- ・照明デザイナーが監修した、明るさや色温度に変化のあるライティングにより、心地良い公共空間を演出

<お問い合わせ> 【事業・式典に関して】豊島区都市整備部道路整備課橋梁設計グループ

# Tour of WEROAD

Commemorative Projects of Culture City of East Asia 2019

戦前後の厳しい時空を宿した 東西の接点

ウイロードから最初に受けた衝動 このかけがえない場所をどうしても という直感  
どうしてこんなに惹かれるのか わたしも知りたいのです

歴史を飲み込むたびに、押し寄せてきた わいざつな美しさ

区民の皆さまと対話描画を重ねるたびに、爛漫に届いた 声

何にもおもわず 瞬間瞬間こころと目を合わせながら

豊島区の豊かさ—文化とは何かを 日々の公開制作を通して体現していきたいです

色のすることは 巡りのなかどんな物語へと 織りなされるのか。

どうぞ 厳しく、ウイロードが再生していく喜びを、分かちあって、面白がっていただけると嬉しいです。

植田志保

*Shiwa Ueda*

1000万のたましいも  
呼び覚ます  
色のすること

# Tour of WEROAD

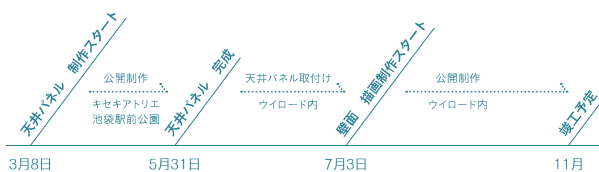
池袋は、戦後直後から各所に存在した「ヤミ市」が発展し、東京の中でも有数の繁華街となりました。そして、東西にあった「ヤミ市」をつなぐ、唯一の通路が、今では「ウイロード」（命名S61.2〜）と呼ばれている「雑司ヶ谷隧道」です。当時から、東西の交流の要（かなめ）として非常に重要な役割を担ってきました。

大正14年の建設から、間もなく100年を迎えるこのガード下は、以前、「ジョンベンガード」とも呼ばれ、戦後直後のダークなイメージを引きずって、「くらい、きたない、こわい」と言った池袋を象徴する恥部となっていた時代がありました。

地元生まれ、育った人間として、「このガード下の大改修なくして池袋の戦後は終わらない」との思いで、わたくしが区区議員時代に働きかけ、昭和60年の改修工事を実現したこともあり、非常に思い入れのある場所です。

昭和60年の改修工事は、それまでの暗いイメージを払拭する画期的な工事でしたが、あれから33年も経った現在では、各所で水漏れも発生し、時代遅れの風貌となっ

制作期間 2019.3～



植田志保 SHIHO UEDA  
美術作家。1985年兵庫県生まれ。色に立脚した表現活動を軸に、「色」の有機的な動きを捉えた作品群「色のすること」や、対話を通し、個人の記憶や意識に潜む「色」が顕在化する即興描画「In a flowerscape」をライフワークとしておこなうなど、多岐にわたる。  
<https://shiho-ueda.com>



©shiho-ueda

「Tour of WEROAD」エピソード公開中  
<https://tomooaoo.com/post/category/tourofweroad/>

ています。また、近年実施した交通量調査では、女性から嫌われて、避けられている状況が明らかになりました。今や、池袋は大きく発展し、「住みたい街・訪れたい街」として高い評価を得ていますが、このガード下だけは、「置いてきぼり」をくっている状況です。

ウイロードは、現在、年間1000万人もの区民や来街者が利用しています。また、2019東アジア文化都市豊島の開催による観光客の増加をはじめ、4つの公園を拠点としたまちづくりにおいても、非常に重要なルートで、国際アート・カルチャー都市における街の中心的な役割を担います。

今回の事業は、女性が街に出てきて安心して通れるように、また、女性の視点を通して、素敵なデザインとなるように、ウイロードの再生に挑戦するものです。

再生にあたり、美術作家の植田志保さんに出会うことができました。植田さんは、「色」に立脚した表現活動をされており、イラストレーションや空間装飾への作品提供など、国内外で活躍されている美術作家です。今回、実際にウイロードをみて、現在のものと全く異なるものに作り替えるのではなく、今ある壁の上に絵を描きたい、と提案されました。

それは、長い歴史のなかで、これまでウイロードを通った数えきれない人々の声に耳を澄ませられ、そうした人々、一人ひとりの声や物語をウイロードの壁に描く、というものです。

過去を塗り潰すのではなく、伝えながら甦らせていく、新たな命を吹き込んでいく。それこそが、まさに再生であります。植田さんの手により、ウイロードが他のどこでもない、池袋というまちの文化を伝え、発信していく場所になると期待しています。

この再生事業は2019年東アジア文化都市豊島の開催期間中であることから、公開制作として皆様にご覧いただいております。

植田さんには、「文化」に対する共通の感覚（センス）を感じています。

ウイロードがアートの世界に生まれ変わる2019年秋をぜひ、楽しみにしていただきたいと思います。



2019年8月吉日  
豊島区長 高野 之夫

